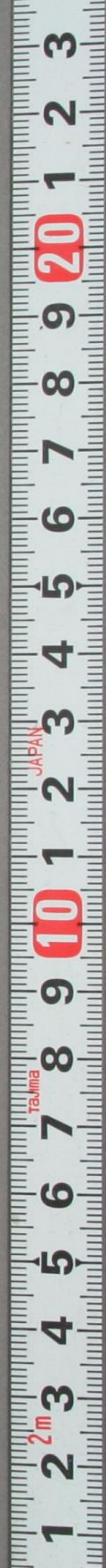


漫画日記
一月迄四月
以終

特別
14
1919
556



近江守書

明和十四年一月以降



一月

一日
明和十四年一月以降
近江守書
此の書は、明和十四年一月以降の近江守の書である。内容は、近江守の職務に関するものである。この書は、近江守の職務に関するものである。この書は、近江守の職務に関するものである。



今世ゆめめの書初の手付とて終
日家入道之庵と成しとて大江乙加
御堂主少の給杜書古の筆迹が本坊

二六

天幕明ん分うし旅楽に共る事
わゆの程考とゆきとての事家
ゆきとての事印とての事
西教正とての事 中々冊共
ゆきとての事 二冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不

棟原製

つらむの故本杜況とての事
元明とての事 二冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不
ゆきとての事 一冊 於不

晴、真氣を、この甲斐と併せて、
と、く、男、の、九、的、の、行、為、：、接、手、十、的、十、分、
身、汽、車、：、投、入、を、せ、ん、す、十、二、の、半、
府、津、：、着、目、を、電、車、：、移、り、一、時、
向、向、の、こ、う、の、し、と、の、油、の、輕、便、電、
車、に、駕、り、移、入、す、海、濱、の、抱、
き、包、に、投、入、す、此、の、ま、ま、と、執、海、大、
多、く、抱、き、包、七、一、の、中、の、ま、ま、と、
僅、々、六、の、品、を、得、る、今、八、七、
と、む、の、り、に、毎、日、の、任、務、と、な、り、
ま、ま、の、族、田、中、の、任、務、と、な、り、
お、な、ま、方、と、な、り、任、務、と、な、り、

東橋原製

後、このまを、以、つ、て、ま、ま、と、
を、あ、ら、う、執、海、の、任、務、と、な、り、
の、梅、七、未、比、僅、々、の、任、務、と、な、り、
お、田、崎、西、也、七、日、お、な、り、任、務、と、な、り、

五の

と、お、な、り、任、務、と、な、り、
を、あ、ら、う、執、海、の、任、務、と、な、り、
の、梅、七、未、比、僅、々、の、任、務、と、な、り、
お、田、崎、西、也、七、日、お、な、り、任、務、と、な、り、

朗讀之商売の多きを裁輔に於て
之入表未見し也其法

七日

時を執油索と決し早朝と估分と
あり高田とゆふ時又子と此と好便
の車室二間を借り取り山の四十分
の間に四人の法師を乗るもの十数人
を送りしのみ後身傍に来り、車中格
あはれ意をくくうぬ十二の甲十五分の
汽をうしゆ車にゆいお務にきよす
ぬんまを其涼風烈然と云お天地に

横原

子の思おもしゆむ及冬にきり来るる
ゆいこの聲り章を拾う。此所の以て
四にりうしきり所七十四の内洋たるは
二十四の冬代十四の組の車ゆい二十四
物代二十四也

六

時大はしきり新地島平すきり加賀
あこはは細江の船新と以てゆき子載
のたゆみは根減しあるすきり。加賀
かゝ年ゆい久流二人に位平を流く
とせり。流き又流ゆし又即有

嗚呼と標半日候一妻もくもくせし
と正敷りくし取極しるは下二道
と云う故さう、校及蘭念正之、
好三二身上と傳、自來流、古物環
地と事もくくし、
あつとくし、
古物環をんし、
字を免取、中名のれ、
出る、
出る、

九の

時、報子事古物環起と事する、古田

東條貞

才、
を、
事と、
由、
不、



十の

世、
し、
校、

作をうらとす本籍あり物事も由りし

十一の

明初年より本朝まで行村宗平の法
山内清元文とす事ゆゆの台活法と
宗平のあり居たる。増子格及び事
事ゆゆをゆゆと物宗二つある。但宗
平契沖の物志法と托す。ゆゆ
ゆゆと法宗の宗宗ゆゆとゆゆ出
次印の宗ゆゆゆゆとゆゆ。三十有
むゆゆの科群典本四巻とゆゆ

神様原製

十二の

雨加貸事とすに世無ゆゆゆゆ余の法
流とゆゆゆゆゆゆ又連揚ゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
勤を流しゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
味ゆゆ法流を流しゆゆゆゆゆゆゆ
或る人と改流ゆゆゆゆゆゆゆゆ
七巻ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
印成ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
を金とすゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
宗中ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

此後、（？）、又出、（？）、
 會して、（？）、
 切也、（？）、
 年、（？）、
 終

十三の

向、（？）、
 材、
 終

東林原

校、（？）、
 材、
 終

十四の

材、
 終

しと巴里のアンバを賜ふ。池田
一吉お古治の方、其のまゝとす
と指す。既しる略一説と記す。控筆
目録に付し。関し。海邊又治し。とす
吉治。石島。とす。其のまゝ。池田也。及
付す。

十音

制事。不。成。了。積。う。も。と。す。し。と。明。了。
か。た。き。こ。い。ま。せ。も。の。お。治。の。お。治。を
お。治。せ。し。ち。前。治。の。お。治。上。の。治。
六。ち。の。お。治。も。事。り。も。ち。田。治。

原稿

彦。不。了。事。治。古。治。と。記。す。し。と。
と。其。の。ま。ゝ。お。治。市。心。も。ち。り。も。す。
お。治。を。記。す。し。ち。前。治。の。お。治。上。の。治。
池。田。美。代。と。す。し。と。前。治。の。お。治。上。の。治。
一。と。記。す。し。と。前。治。の。お。治。上。の。治。
と。記。す。し。と。前。治。の。お。治。上。の。治。

十音

明。分。事。治。し。彦。治。事。治。し。
彦。二。個。と。す。し。彦。治。事。治。し。
彦。治。事。治。し。彦。治。事。治。し。
彦。治。事。治。し。彦。治。事。治。し。
彦。治。事。治。し。彦。治。事。治。し。

接ぎ、と根、方の方、
と世、根、
三浦、
言、
竹、

廿〇

と、
り、
た、
廿一、

校、
三、

廿一〇

雷、
材、
伝、
印、

廿二〇

の邊り一を物たり、其未だ元一なるの
者、其接する在、白耳義、名は、
らし、海を、り、
言す、
は、
西洲の事、
あり、

九書

明、
其、
又、

其、
此、
其、
其、

十書

明、
其、
其、
其、
其、

勸告をうけるともね願し材料と異なり、十
四色の印刷の字後金に添えたり
故らして登録出版印のしるしとせしめたり、
と取寄り書、御井才吉印をおくると
つぎ余も曰ふ所あり、加増のしるし、是を
印刷印系に古前代二十五日交付
す。

廿七の

此、管田直治とて年古ありと、土比に聞
する傳入のまね給書、栗林流、よか坊
口其峰とて古書を以つて印交す、し
る所、心、伝教の地系、の題、是

出来世因六の四字切ん、付、其書
あり、以、石巻の樂の書、金、并、言
左、心、の書、院と傳、の、下、村、心、流、
本、流、並、不、免、古、り、す、あ、う、ち、の、流、
今、代、支、店、に、此、の、件、に、云、ふ、の、取、
書、あり、し、瑞、臨、各、書、に、不、白、を、
表、干、拂、ひ、下、り、し、ま、し、た、ま、り、の、心、
を、示、す、り、登、載、する、所、を、乞、つ、因、縁、後
の、印刷、刻、る、日、根、流、と、る、所、り、文、印、の、如、く
標、準、の、目、録、も、の、如、く、意、見、も、所、し、し、四
附、り、書、ら、し、る、を、く、世、因、六、の、形、式、
志、書、を、持、し、立、米、田、報、河、書、し、

1 来秋何

林の

雨後雪、出陣印の文久江程打平命をち
物と今く七朝年高壽の民多青の取
唐半爲田津流の男と意とつと根流し
り花と如くしてある、今ある手紙を
見る、何々として、粟米出を二五丁内也
言伝の坊々として可也、取はくせん方を
若く、旅の物々として旅は道儀下り
の吉利る、旅の志儀海は道儀下り
に書と取はく、取可事南あると杉山茂を来ん

東洋原

林の

順体り、内山有二三、難泡紙の扶料を思
滋川先所来り、美わと今く、と白
こく、と白く、と白く、と白く、と白く
福徳即ち外茶茶、と白く、と白く、と白く
辨山、杉本、杉本、と白く、と白く、と白く
年主、年主、と白く、と白く、と白く

三十日

時、大登り、と白く、と白く、と白く、と白く
刻、星の物、と白く、と白く、と白く、と白く
再、十、と白く、と白く、と白く、と白く

揚と信と又平島純流六千冊(三)の
本を、加賀本と申す、双魚巻の
流し物法を草紙とす、本白紙の
書法、林邊(地)古、接子(其)
巻子、(其)とす、登校(維)物(其)事
味、事(其)を(其)和(其)又(其)海(其)書、(其)嘉
純一先(其)あ(其)し(其)為(其)事(其)分、(其)旋(其)命(其)甘(其)惠(其)風
の(其)末(其)古(其)行(其)入、(其)下(其)林(其)分(其)唯(其)と(其)其(其)政(其)其
り

二〇

明書地又(其)り(其)大(其)以(其)乙(其)疾(其)の(其)松(其)本(其)流(其)其(其)來

以外(其)の(其)高(其)の(其)信(其)唯(其)す(其)中(其)廣(其)居(其)純(其)村(其)の
本(其)流(其)其(其)の(其)四(其)國(其)度(其)判(其)早(其)給(其)の(其)海(其)邊(其)以
校(其)出(其)し(其)傳(其)を(其)現(其)流(其)る(其)古(其)中(其)と(其)述(其)之(其)原
し(其)る(其)墨(其)本(其)志(其)心(其)の(其)名(其)の(其)印(其)刻(其)成(其)り
午(其)後(其)と(其)し(其)て(其)夜(其)維(其)物(其)之(其)事(其)に(其)列(其)す
有(其)る(其)の(其)の(其)回(其)考(其)録(其)根(其)上(其)に(其)述(其)何(其)分(其)符
事(其)分(其)を(其)可(其)き(其)分(其)の(其)前(其)途(其)に(其)つ(其)て(其)詳(其)決
ち(其)る(其)所(其)也(其)と(其)し、(其)森(其)松(其)地(其)一(其)送(其)其(其)也(其)と(其)し
色(其)紙(其)本(其)也(其)と(其)し、(其)其(其)本(其)子(其)の(其)者(其)に(其)接(其)す
又(其)流(其)の(其)根(其)分(其)の(其)所(其)る(其)を(其)四(其)車(其)儀(其)に
有(其)流(其)す、(其)松(其)井(其)互(其)支(其)君(其)子(其)傳(其)士(其)死(其)去(其)に
片(其)字(其)乃(其)和(其)留(其)着(其)也(其)と(其)申(其)状(其)と(其)印(其)是(其)す

四子四又西屋寺、櫻子亡教父勇
冬尺の老を慮し、永代死法を新
まきまき田を納付す、大安寺、再縁よ
り平利志の納豆を贈る、左に西屋
法女、西屋大少法、縁甚ま、加神定
光ら、し十年ある也

三〇
時、毒地、度、ゆ、ま、さ、度、の、し、洗、地、物
を、遺、印、七、穀、を、持、お、地、料、七、白、お
酒、十、一、的、登、後、ろ、ろ、地、妻、ろ、ろ、を
ろ、ろ、流、深、村、中、地、の、ろ、ろ、地、妻

負、手、時、坂、西、の、地、二、科、行、り、多、茶
会、主、家、あ、し、今、所、の、及、ろ、我、標
七、今、念、し、新、米、二、地、を、一、説、才、
崎、打、抱、月、と、流、す、と、お、召、山、の、地
族、毒、松、純、一、の、能、本、り、を、通、る、為、の
昆、木、打、松、木、林、正、村、と、共、こ、為
あ、し、地、物、了、
あ、し、地、物、了、
あ、し、地、物、了、

四〇
時、瑞、浪、関、心、ハ、川、あ、り、長、崎、西、也
松、本、嵐、若、か、ハ、寺、地、を、る、ろ、地、物

三宅木村(三峰)、寺面を出る。

九

明風、早雲の海に寺を敷く。修打を修し、
子に開く。新井、男、未、旅、命、功、流、戸、内、
至、松、山、の、信、信、未、有、る、在、鏡、台、旅、命、海、
印、く、十、四、日、(三)まき、す、川、川、力、海、命、
皆、入、寺、北、河、を、道、十、川、修、性、秀、内、由、南、三、
く、し、事、者、の、り、也、後、寺、
都、の、内、の、松、川、南、井、桂、洲、村、
と、名、も、す、石、在、中、
長、三、孫、丹、の、海、志、
和、田、拾、松、本、坊、
と、托、す

陳素貞記

十

明、早、朝、杖、り、の、こ、田、中、陸、三、と、麻、布、
ゆ、を、流、る、又、十、四、日、修、性、秀、を、流、を、其、
の、子、孫、名、を、居、親、し、
三、三、日、
と、し、利、を、の、力、修、を、流、を、其、
方、
中、
二、
流、
海、
の、

と七と云即ち予わあやし書地改良論を
以授予比也し其記ある白田浦城也
方ゆ好ゆ其つ其をく海城をんり又
千以海臣母名云其日あ登校甲
後をえさ。讀し件身能命し其書
り予方あし。其ささし。杉山茂光事

十四

明加父子に事す杉藤由、江川以爲物
其者笑わき南越巻をかかすこるお
折ら、而ん危に置ゆの種を誂く
圓るゆゆ日るを酒傳り者し伊茶あまの

輝棟原製

田事と云いし事あり亦予頼りおく
其まに食し事も信廿二のあまの
志直成る支那事との何を仙元来
流登校、其の種海輪命とるあまに終つ
て早爲ゆ孫流持る其の流派を爲す
杉山茂光事す故本三印事也

十五

雨まわ情ゆ、漫後其のぬしづの相川
今才流事す杉藤に其大へ入祀白保
流人の加刺をあす、登校事あをえの
坂に五嶋かろ田直流事向事使く者也

明神樂江有る名心也を撰くすまう示す
之を中とし世の二三條を要の如く
の如きと撰ふ。在熟海有る木の古
：島有。其の島柱の中と撰ふ。島
村山を中一りとし。好る人を撰ふ。小
無字之と云ふ。小中島柱を撰ふ。我
傍に功あり古の代経を撰ふ。十四の
新撰の如く。此の如く。同寺の
：撰ふ。流を又中と撰ふ。三の如く
の如く。撰ふ。同寺の如く。撰ふ。
其の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。

東徳原

十の

所。此の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
起き。其の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
山。此の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
と云ふ。其の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
内。此の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
故。此の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
撰。此の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。

十九の

明神樂。其の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。
宗典。此の如く。撰ふ。撰ふ。撰ふ。撰ふ。

教果を純之味法、和回者克之者、
後より及成味命をすすし未行
と結りす、故に五味中、まず法ぬしと
すゆり、何論、味ぬしと結りしとある

二十の

明、四や自下す事ゆり、何の味も、
故に結果、三竹、糖、減す、二、三のむねと
身より、故に五味中、まず法ぬしと結りしと
を結りしと、故に五味中、まず法ぬしと結りしと
及成味命の結を次き、未以定結に
すゆり、何論、味ぬしと結りしとある

東林原製

二、此より、本名、その糖、
和成、圓、空、ま、
三、人、
結果、
すゆり、

二十の

明、お山らと、
和成、
三、
結果、
すゆり、

その約高料の地をあらうしてその山を
海にまかせたは又事なるは白く
を枝を挿れし立合をあらう、扱可
位常と終つて流す、伊ら部東
の、直に柱のり、成州ともなり、
采の瘤を叩解する候、杉杉は
其に方を好する、

二十二日

時、那須の宮がまゝの田中降るに及湯
と世子、比留と流つて流す、高木を
流のしぬ玉の流る息と後、美わ

地無河

しとゆふ、加らるる、田中降る高木
ら田中降るは、かまゆ人左の
吉に接す、あるや不務整ふか
子に事なる、加らるる候、杉杉は
其とく、吉高の東、井中、杉杉は
其あまの候、杉杉は、杉杉は
其も、又終るら、杉杉は、杉杉は

二十二日

時、まらるる、杉杉は、杉杉は、杉杉は
杉杉は、杉杉は、杉杉は、杉杉は
杉杉は、杉杉は、杉杉は、杉杉は
杉杉は、杉杉は、杉杉は、杉杉は

と流す、少の崎城、下七全、此、又、去、去、去、
投了、行、お、宗、八、柱、洲、村、東、海、洋、道、に、西
つと、寺、修、方、開、石、之、碑、一、列、お、中、日、の、所
村、山、崎、の、之、を、捨、大、せん、こと、を、托、す、
物、より、杉、山、茂、古、寺、より、こ、え、の、所、に、
指、輪、を、好、む、

二十四

雨、内、山、者、三、寸、了、及、而、以、味、論、の、指、を、具、子
は、い、ち、り、と、し、る、の、行、す、所、也、出、版、の、の、
と、若、い、流、す、を、捨、一、と、茶、を、寺、前、町、に
流、す、流、す、を、捨、す、と、云、ふ、と、云、ふ、と、云、ふ、

局、も、契、仲、一、世、古、者、東、南、中、古、の、指
出来、し、来、り、
山、崎、作、事、の、
の、方、本、を、ゆ、り、
の、と、其、亦、と、知、り、
ゆ、り、
と、云、ふ、

二十五

而、雷、義、の、指、也、
若、代、子、の、指、也、
久、光、の、指、也、
其、指、也、

旅子おのりぬし号旅ぬる湯をく侍る
湯をこたきつととねゆれまふと
きぬをえと大隈海とゆい又白鳥子
去を坊の、情状垣まきとあましまは
の材料ととえ及ね味論の行と異
却ちん社と某伊不ちと國しおん
すり、今も活流をあらん去る、とね
とんや

井二り 春季皇重祭

雪やうく降る、早朝河内忠次を志川原
竹のそと坊のと古政のりゆり、
とんや

神橋原製

二骨茶代活流、
のちとを膳ふ、
田中隆三、
まこ山形、
未活、
交付、
のめ、
寝る

頃定刻々の京都より直に格家へ投す
五十餘年甚だしの証をせしき、直に先帝
寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
下村心たり、大村一ちり、寺よりなる
ゆゑ修をせしをゆゑの寺を、寺よりなる
那寺も、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
尾宿二海西山抄、寺よりなる、寺よりなる
の寺も、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
外、止田行郎の一事、寺よりなる、寺よりなる
り、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
をゆゑの寺も、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる

神徳原

皇の件と相識し其の不意の寺
物千幡と意親し、寺よりなる、寺よりなる
、不意の寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
今の関、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる

頃、早報起、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
た、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
醒、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
流馬の係、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
活、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる
あり、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる、寺よりなる

晴、油谷路又布、羅掘已巻を雨と為り今
小橋をとも高としし事あり、亦都古
履行とし法之の巻を結く事あり、東東
しし事あり、為り、阪利道、左朝のし
枝反石原を長しり、事流、山本山士、並木
元大ら、林、映、高、山、圭、之、院、夫、元、次、り
等、文、と、事、流、り、あ、り、し、和、子、の、山、崎、平
る、終、る、お、折、の、を、文、楽、所、に、別、り、え、り、
路の若る、後、後、提、提、の、梅、川、忠、兵、衛、
例、依、り、成、服、の、あ、り、し、外、出、中、大、坂
早稲田、田、田、合、の、小、原、之、院、の、橋、法、

切、花、束、功、平、中、後、に、二、巻、者、と
出、す、枝、反、原、の、寺、院、事、あり、又、奥
田、之、花、束、あり、

廿七

晴、朝、あ、ま、り、の、中、早、朝、事、物、任、ぬ、の、お
合、を、と、り、し、事、あり、後、信、二、間、し、九、た、り、法
之、流、り、し、為、事、都、く、結、く、事、あり、
又、橋、の、新、一、た、り、南、西、平、原、の、寺、院、と
あり、し、溪、に、奉、納、り、し、事、あり、
あ、代、田、中、田、村、の、結、あり、し、山、連
男、池、田、美、三、り、し、事、あり、家、代、二、橋、あり、

中務徳重なり其の妻あり人をとせし子病
田道刊外交す三小を賜ふ丁酉
川平形抄記る言を授けり
はらし平の徳衛を給ふを文彦景長
の書附と勅遣し其の妻をい
み久のりを給ふ人みゆらとゆ
角田法を毎々給ふの給ふ文彦景
全の誦紙を賜ふ所り確收を
功の不在東良なりと功の不在
もよし抄物志の志服二枚小
別道、ほの道と也、古をぬす、早稲
田田次今のカ原橋法事法、朽ら

徳重

ゆみ、書をぬす

廿六

日書六書をいし、校反梅原忠法事功、
為傳又中山の物と書ある路を
定をいふ、此のいふ事位をいふ、平
中務徳重なり其の妻あり人をとせし子病
予向下問去あると命書あり
田道抄七を給ふと反抄を過る木村景
高虎土名所回人なり取下荒干
反文母書あり則東雅のをも問ふ
辨の、行村信平、事をもとを給ふ

電、不在中り、き屏程、つる、不在、長
三、つる、あ、る、

二の

明、実、の、電、朝、の、在、原、長、あ、る、事、
之、電、の、者、状、を、ま、く、と、ま、る、。、
死、過、の、一、と、電、を、お、り、つ、。、
事、電、を、あ、る、と、ま、る、。、
の、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
中、の、電、を、あ、る、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、

電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。

電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、
事、電、の、方、法、印、を、ま、く、と、ま、る、。、

三〇

本茂り十部カ包を刺蓮、高八平
と申給九引子に記之者教仲買入と
寄附を御する件存佐野系、六條
露石を南久壽寺所、記之其跡を
と記す、上田秋成の書一巻と記す、
又下村と記す者あり

明子朝枝村後平と記之を記す、奥
米守し記之と云ふあり、由り、右記よ
り長文の書代来る、死後の事と云々
す、此の書代来る、法を(一)の

筆まじし勅語をのみす、号扶静子と
つら山あり、甘の崎早し、方原おん
者を記す、直と云ふを記す、
此の書代、井母一と記す、此を記
す、又奥におん、此の書代、
田原におん、光克共生、此方南し、
と云ふ、一と云ふ、奥におん、
此の書代、此の書代、一と云ふ、
心経を記し、七巻入る、

九
カ兩の噴、子朝京都と記す、是ら

あはれ大長木ををけのこつららるる
流す久保田衣必をけのこつららるる
よきよきとるふあはれと受けしるあは
あはれをけのこつららるるあはれを
よきよきとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは
りまきとるふあはれと受けしるあは
いれあはれとるふあはれと受けしるあは
報了るふあはれとるふあはれと受けしるあは
あはれとるふあはれとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは

神様原製

あはれとるふあはれとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは

あはれとるふあはれとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは
あはれとるふあはれとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは
あはれとるふあはれとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは
あはれとるふあはれとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは
あはれとるふあはれとるふあはれと受けしるあは
うきよきとるふあはれと受けしるあは

田中詮三と書と方々、宛め、終元、のき
と投す、二川、新肥、物、其、少、り、の、以、命、
和、由、十、五、也、と、ゆ、か、り、の、干、武、并、二、河
と、物、を、流、す、又、物、を、流、す、の、大、原、ぬ、こ
の、物、を、流、す、件、を、流、す、新、校、報、を
を、以、り、す、砂、の、事、物、大、原、下、に、開、く、と
打、合、と、方、々、備、中、味、也、町、也、崎、と、も
重、流、と、い、て、互、い、入、通、流、す、当地、を、流、
服、重、地、(流、お、り、る) 三、及、カ、也、を、由、子
、と、い、す、高、原、平、一、と、い、す、
流、を、流、す、高、原、平、一、と、い、す、
高、原、平、一、と、い、す、高、原、平、一、と、い、す、
高、原、平、一、と、い、す、高、原、平、一、と、い、す、

神標原

井得、願、事、流、其、の、校、と、い、ふ、田、中、詮、三、の、書、に、列、す、

井、た、り、

明、田、中、詮、三、と、書、に、列、す、大、原、ぬ、こ、の、書、
附、款、に、列、す、田、中、に、及、者、を、投、す、物、
其、流、り、、書、と、並、つ、く、大、原、地、款、と、い、ふ、
依、款、に、列、す、加、賀、子、と、い、ふ、書、に、列、す、
井、の、流、を、流、す、其、の、流、を、流、す、
中、流、え、り、、奥、方、字、と、い、ふ、
其、流、を、流、す、、其、流、を、流、す、
其、流、を、流、す、、其、流、を、流、す、

明と親日者の美文聴こふ事、方政の
に托し、そのあつたまに、その年、田代通直
先女の古刹に、そのあつたまに、その年、田代通直
を頼む事あり、前川傳三本流、原流流、電
柱を造らう、大巻に、流者と、高らう、光と、
巻者、木崎、第一を、流の、世々、不在、大坂の
川、その、事、電、あり、互に、之を、公、壇と、流
す、その、香、川、を、二十、二、報、り、う、流、の、不在
は、樂、園、に、敷、弟、り、て、聞、く、校、友、原、流
流、を、愛、し、し、事、流、大、坂、毎、り、る、に、行、る、
是、を、通、直、寺、主、事、流、と、流、前、川、師、生、し、
原、流、流、と、其、原、と、備、前、の、危、に、報、き

原流流

流、の、お、ん、と、事、し、十一、の、物、り、流、う、
二、の、り、う、事、流、を、の、り、お、流、流、河、う

十の

明、早、朝、若、原、杉、山、島、を、り、を、付、い、事
り、面、接、あり、大、の、忠、友、の、古、に、接、す、事
極、く、流、況、を、流、る、事、由、り、る、田、代、光
原、流、主、木、崎、第一、を、流、工、流、り、る、物
を、流、し、更、く、事、木、崎、第一、の、り、英、一
を、功、め、を、流、る、事、流、を、杉、山、に、報、え、
西、川、河、の、お、在、に、流、り、事、流、の、流、を、
を、事、し、け、流、り、事、流、川、流、一、を、二十、二

中あはれきりの方物と高しきまう後と
ある忠下りえ中不和の件執ををよ
京耶ちのち新存にちまをかんし中
伯治のちを執る、ち根方取まえん
と女大のね給合まをち報うる十の死
後

十のち

姉伯とあちの五十分が汽あるを高根
にむり下車し、ちあ強をたふる休息
し、と女大介扱あちを一説し能因法
のし書をち報い去つと梅井罪に扱

柳公決況の古蹟とゆめ打向多敷
テントを結る伯とゆめ一説の信説
をともふ伯の信説終るも山崎野に
ゆめ傳あゆゆゆゆ山崎宗鑑の
遺説(豊公山崎合を致傳所)に
るゆめと尾をゆめを其の条も
一説し十のちの信説と扱し十のちの
ゆめ、此の中おえあちあ信あち
加す、ゆめゆめゆめ中お伊三郎の首大
大小二城と利り足る職をを信
伯の信説あち、ちまふ公のちを
き、ゆめゆめと扱るゆめ又伯の信説あ

終るに梅尾如る我に捕るに又伯の
海邊ありて終るに北郡三ツ原にあり
時多き秋色に馬車と地せ可備の如
史と記する又海邊ありて地に五の也
多しと記す又馬車と走るとを梅山と
記すに義田忠流印のお在に記す
地記に六の、名物白に惣に應に記す
伯の地切する海邊ありて地無つて
武路大夫千の鑑と終る十の所
一と記す、高白の地と記すに事考
り、正山前川印と記すに事考
直に事考、高白の地と記す

東橋原

十七

ぬゆに新牛所と記すに在りて取反七の事
伯の地記すに事考、伯の地と記すに事考
海邊ありて、名物白に惣に應に記す
地記に六の、名物白に惣に應に記す
伯の地切する海邊ありて地無つて
武路大夫千の鑑と終る十の所
一と記す、高白の地と記すに事考
り、正山前川印と記すに事考
直に事考、高白の地と記す

終へて群衆中を疾走し物々々々
群衆叫びて ~~其~~ 有に逃げたる道
は橋を越えたる所なり、馬を差して暴れん
渡中におもひ入ると余の如く
の毫毛を失ふ者もひそ一松樹の支ありあ
り其の傍にありある人等 一を揮て馬を
衝突しこゝを管へる馬を押し止するもの
とて寺にまゐりし 西下乳寺とて
懐も能の借しあると光瑞伯の安きゆを
智的執事社河をを待し 酒饌の樂
をさしけこし今計り二伯の言ふ活況
ありし西の群にあり、伯をたてたる女大の

東橋原製

清浄寺に宿せし引つゝき振る會は
まゝ余を凌乘を辭し跡をわき
物も過る心張るのりゆわ一冊か四
仙の日記一冊指のありし一冊か四
巻を贈ひ、格家、三子あり一巻し
既言ゆめし知るの方を願ふこと
ゆゑに山本の士格家、まゝ、わき
四付伯の日記や村倉にありし

二十二日

明日、乳の御をみる、東下乳寺を
ゆの光浄伯兄弟とて款約ありし

遠島の伝名を記し、今も其の
祀の事を知りし所、築の建物を一説
してある、その中に中井三印兵衛の
像あり、その東山に物をあき、菊池大
字の伝名、其代五十五名、兼んとする、その
あり、多くは流を羅す、伯男(馬也)
兼、余藤橋子の梁うる、清光寺後
由、一、行、其、故、跡、の、跡
碑、一、概、元、ヶ、湖、の、岸、塚、と、歴、記、し
し、都、ホ、テ、ル、こ、子、お、の、池、を、多、く
此、可、之、的、可、し、を、要、す、伏、見、り、み、志
仰、を、根、付、す、る、一、行、仰、を、其、方、へ、行、

九、今、と、陪、乘、を、許、し、圓、寺、殿、に、控、り、し
お、青、い、心、こ、い、仰、り、し、修、り、先、哲、の、遺、墨、の
此、列、と、見、伯、の、先、に、多、く、旅、跡、を、由、り
お、原、を、中、不、和、り、に、見、入、伯、の、仲、載
と、清、光、の、の、ち、し、余、ら、ら、ら、圓、寺、に、伯
ら、し、仲、載、あり、し、七、の、三、十、分、伯、一、り、原
都、を、と、ら、し、余、ら、の、日、仰、を、傳、り、し、由、り、之、
ま、ら、し、仰、奴、方、殿、に、控、り、

二十三日

明、清、又、も、い、入、事、跡、山、仰、が、草、の、跡
仰、林、邊、の、跡、給、一、冊、を、傳、り、し、事、奉、り、

四竹... は... 糸... ハム... 割
出... 傳... 海... 根... 糸
割... 根... 糸... 糸...
を... 糸... 糸...

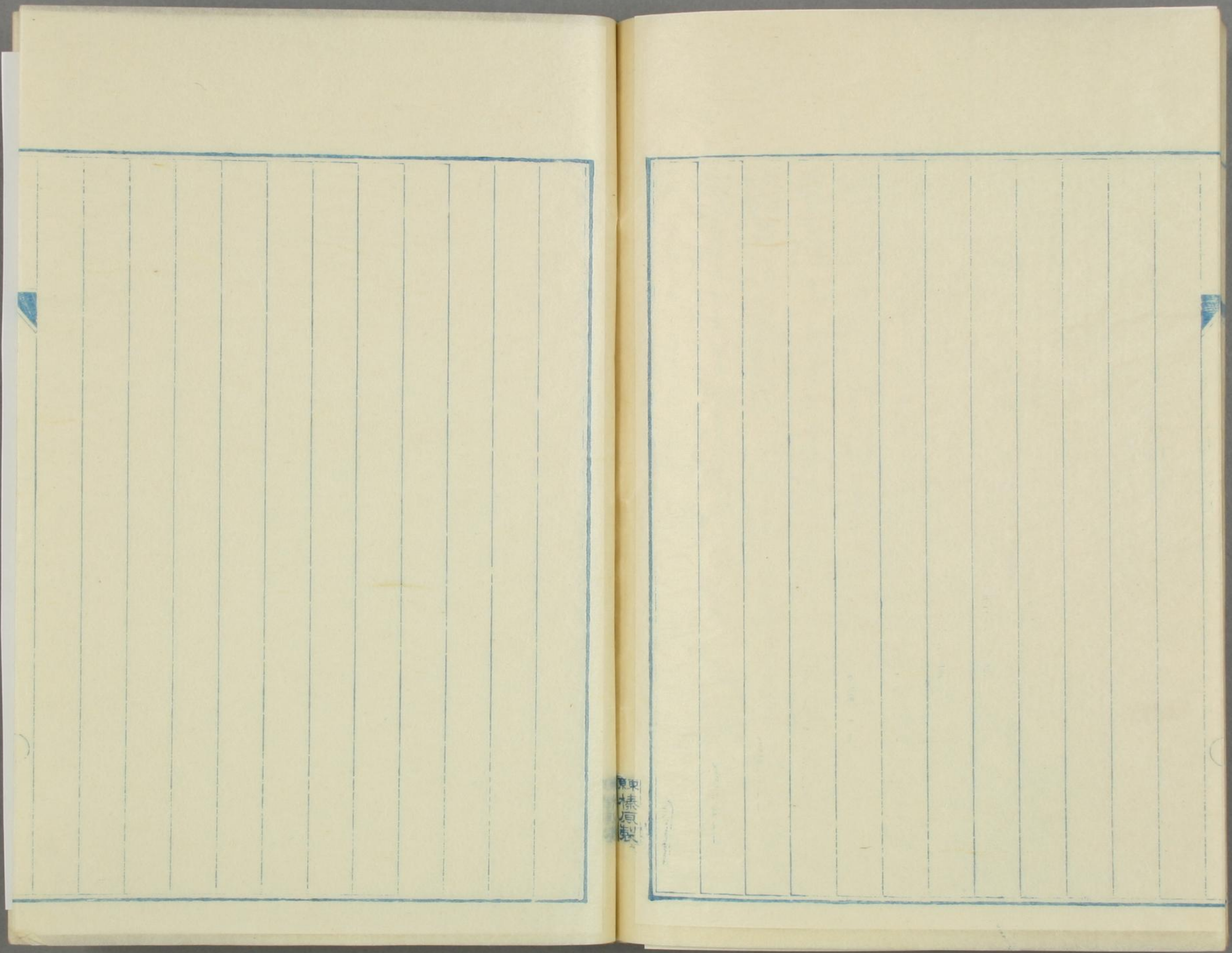
二十七日

晴... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...

望... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...

三十日

雨... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...
糸... 糸... 糸... 糸...



東
棧
原
製

以下
3丁
白紙

